

古代伊勢街道の足跡を訪ねて

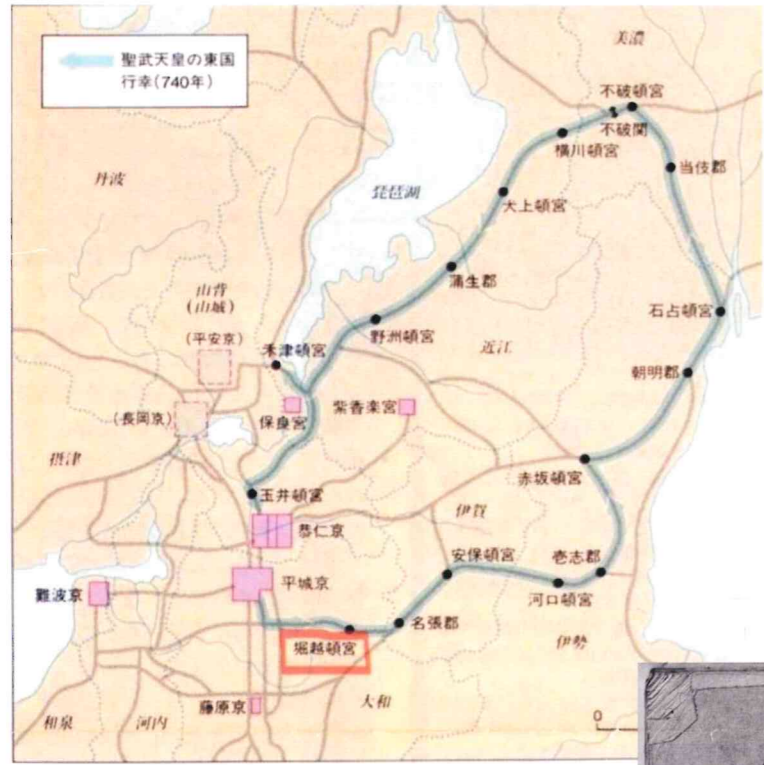
まろ う ちり う ち 産 生 向 洲

願はくは花の下にて春死なむ
その如月の望月のころ 西行

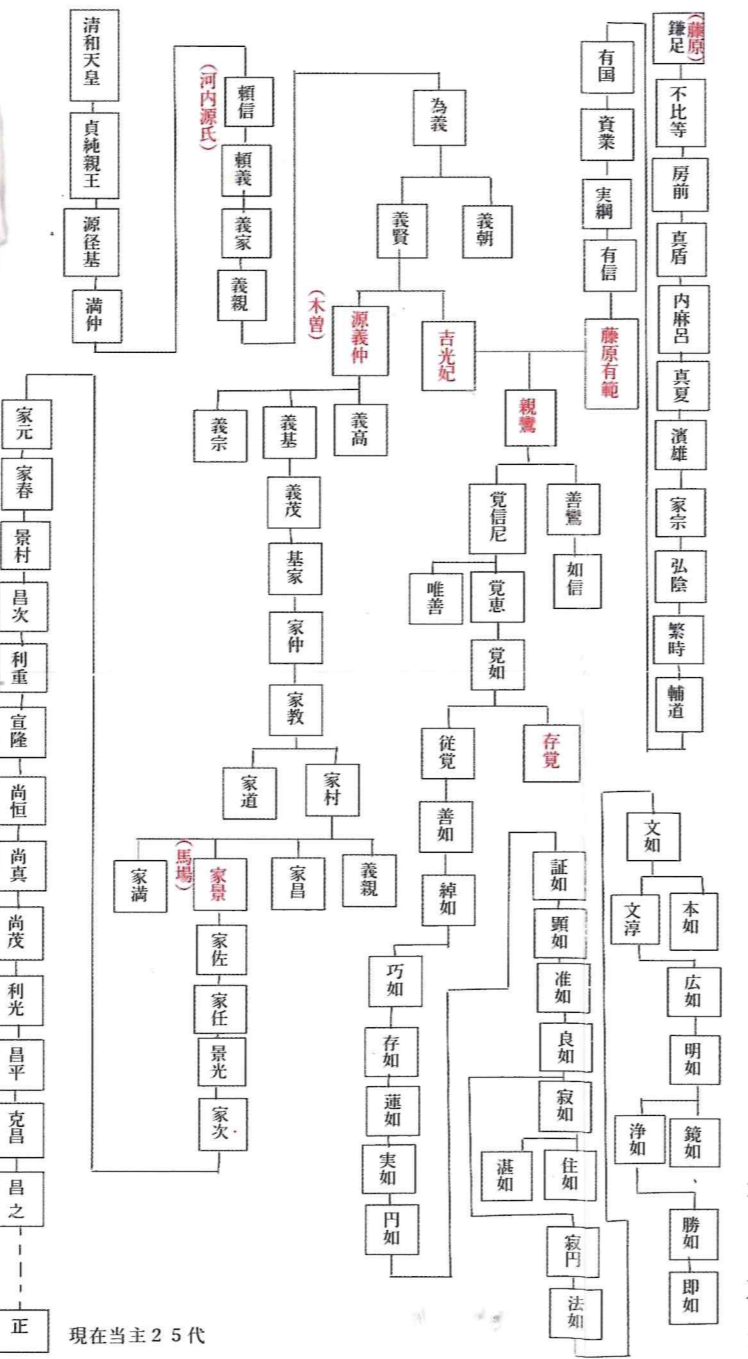
堀越頓宮跡(也)よりの眺望



時代	国の歴史	西暦	年次	向洲の歴史
縄文時代		4000年前		宇カネツキ(石鏃)、宇イナベ(石鏃)、宇龍神(縄文土器・石鏃)
古墳時代		500~		宇サッカ古墳、宇イナベ古墳
奈良時代	平城京に遷都	710	和同3年	都祁郷を経て伊勢東国に通じる道路開拓される
		715	霊龜元年	大倭国都祁山之道と記されている。平城京—和邇—福住—南之庄—白石—無山—向洲—長瀬へ通じるものである。「続日本紀」「大和志」
		724	神龜元年	聖武天皇即位。御勅願として高堂十一面観音菩薩祭祀あらせられた 「高堂由来記」元は小字ベザイテンに建立(現在の高堂跡) (大門→竹溪寺→飯降摩産仏→高堂が真北線上に一回で拝めるよう配置)
	天変地異や疫病が流行る	740	天平12年秋	聖武天皇は東国幸行に出た。奈良の都平城京から古代伊勢街道を通り竹溪郷(後の和州山辺郡向洲庄)堀越頓宮で一泊され5年に渡り伊勢・美濃・近江・恭仁京・難波京・紫香楽宮を転々して平城京に帰った。向洲の小字御所代が堀越頓宮跡と伝承されている。605年後に建立する正定寺の場所
	大仏建立の詔出される	743	天平15年秋	また飯降摩産仏の南方対岸に小字大門に竹溪寺跡・経塚の伝承がある
平安時代	保元の乱	1021	治安元年	向洲・牟山・小山戸・新田・水浦(白石)・蘭生・南殿の諸庄「山内セツ所」の成立「都祁水分社縁起」
	平治の乱	1156 1159	保元元年 平治元年	伝承によると、源為義の次男義賢(?~1155)には三人の子があり、姉を吉光姫、弟を駒王丸は、後の源(木曾)義仲(1154~1184)と妹の宮菊です。吉光姫は二十歳の時、藤原有範と結婚し、三年目の承安三年(1173)に親鸞聖人(1173~1263)をお生みになったのです
		1184	元暦元年	近江粟津で源範頼・義経軍が京に迫り、源(木曾)義仲戦死する。基は滋賀県大津市馬場1丁目義仲寺、首塚は京都八坂の塔がある法観寺に眠っている
鎌倉時代	承久の乱	1221	承久3年	京都が戦乱となり戦禍を避けるため、親鸞聖人生母吉光御前が藤原有範の用人佐津女の故郷和州山辺郡向洲庄に幽棲した。その後剃髪尼となり小字境谷に正道庵を結ぶ(現在正定寺願所としている所)
		1223	貞徳2年	吉光尼公寂、七十三歳、向洲庄東方小字東谷に葬る。場所は「里謡で伝承」
		1311	応長元年	東大寺領伊賀国黒田庄(三重県名張市)の黒田悪党蜂起が繰り返される。興福寺莊深野庄へ乱入し年貢米を押領、向洲庄も跳梁される「東大寺文書」この時期に向洲庄に向洲城が造られる
室町・南北朝時代	南北朝対立	1347	貞和3年 貞和3年冬	東山中衆として向洲庄が南朝側(官方)に付く 本願寺第3代門主覚如上人(1270~1351)の長男、存覚上人(1290~1373)は教学伝道で伊賀の国へ下向されその帰途同国神戸郡より古代伊勢街道を通じて和州山辺郡向洲庄の源(木曾)義仲の流れを(む馬場家系の子孫を尋ねて来られた。吉光尼公の墓参りをなされ暫く逗留され、年を越されて京都へもどられる「存覚上人伝鑑古録」
		1348	貞和4年	馬場家の懇願で正定寺建立される。この頃から馬場の長者と呼ぶようになる 龍王ヶ洲の堂垣内住人が大野神田と向洲大垣内に分かれて下りてくる
		1592 1614	文禄元年 慶長19年	太閤檢地で奥山(郷山)を向洲領となる 大阪冬の陣に向洲庄から馬場家一統17騎を率いて徳川方に参戦「馬場家一統で元庄屋の新屋(新谷家の屋号)古文書」武功を認められ幕府天領になる
江戸時代	大阪冬の陣 大阪夏の陣	1686	貞享3年	古向洲村・新向洲村に分かれる「小廣家の古文書」
明治時代	徴兵令 地租改正	1874	明治7年6月	向洲小学校開校。明治37年日清戦争向洲戦没軍人1名
大正時代	オリンピック初参加	1912	大正元年	古向洲村、新向洲村を統合し向洲村になる。新向洲村の番地訂正行われた
昭和時代	満州事変 日中戦争 大東亜戦争	1931 1937~ 1945	昭和6年3月 昭和12~20	参宮急行本線上下本町~宇治山田間全線開通 向洲戦没軍人34名。近鉄電車に20年6月西大野トンネル付近で空襲があり、向洲だけで3人死亡。20年7月榛原駅手前で空襲があり、11人死亡27人重軽傷、県下最大の空襲。戦後長野県から奥山に入植された



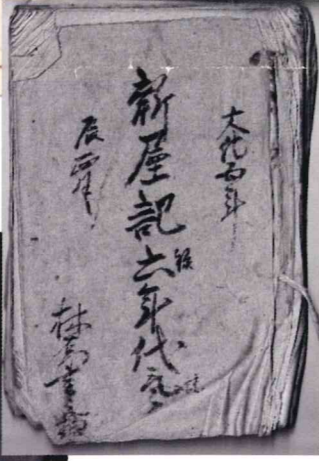
吉光妃



(屋号奥谷)

現在当主25代

馬場一統の元庄屋新屋(新谷家の屋号)の古文書



小廣家所蔵の古代伊勢街道が載っている地図

向洲の地名の由来:大昔は大倭国山辺郡竹溪郷でしたが後世に南北の山麓標高500mに龍王ヶ洲と飯降ヶ洲が向かい合っている地形から向洲と改めた。1716~1736享保年間編纂「大和志」
今回向洲の歴史を継承する会の第一歩としてこの資料を作成するに至りました。そして古道調査・確定にご協力下さった方々に御礼申し上げます。この資料を一人でも多くの方の目にし、古代伊勢街道の足跡を知る一助となることを心より願っています。
(向洲の歴史を継承する会代表)